



関係会社との一体感を持った連結経営を目指す三井物産の関係会社の会である「三栄会」。その最新の活動状況を紹介するシリーズです。第2回として、第26回東京三栄会総会の模様をご紹介します。

- お問い合わせ先：経営企画部連結経営推進室 東京三栄会事務局／柴田 ☎7569
- 東京三栄会ホームページ：http://www.san-eikai.or.jp

第二十六回東京三栄会総会が開催 「一体感のある連結体制」へ向けて、改革が始動



会員各社に向けてスピーチする榎田社長

な活動のための改革案が承認されました。

グループとして 一体感のある経営

昨年十二月九日、本社十二階特別会議室において第二十六回東京三栄会総会を開催しました。

三栄会総会を開催しました。会員会社九十二社、百名ならびに三井物産（特別会員）の出席を得て開催された本年度の総会では、第二十六期の活動報告と新た

冒頭、増田東京三栄会会長から「本年は三栄会会員

会社が業績面で多大な連結貢献を果たしているが、それだけで社会からの十分な評価を得られる時代ではなくなった」との挨拶があり、「目線の高い仕事を三井物産グループ全体で行い、さまざまな社会的要請に応えていくことこそ評価される時代であり、そのためには各社が三井物産グループとして一体感のある経営を行うことがポイントである」という言葉で締めくくりました。

続いて、榎田社長からは三栄会会員の経営努力と三井物産への業績貢献への謝辞があり、グループとしての健全な連結経営のためには、三井物産と三栄会が一体感を持ち、一つの方向に進む姿勢が不可欠と強調しました。

来年度から「経営懇談会」を実施

東京三栄会の一年間の活動報告や決算報告に続き、第五号議案として「組織再編成及び会則変更」を審議しました。三栄会幹部による会則変更の説明の後、出席された会員会社の力強い賛同の下、改革案が採択されました（詳細は、平成十八年一月号「サンエイニュース」をご参照ください）。三栄会にとっても、三井物産にとっても重点テーマである「一体感のある連結体制」へ向けての改革が動き出しました。

改革案には一体感醸成のための新しい試みがいくつか組み込まれていますが、年初からさまざまな形で具体化していきます。その中でも大きな試みは「経営懇談会」で、三井物産の経営幹部と会員会社の経営幹部が連結経営の方向性や施策について直接意見交換する場として設定されました。初回を

本年三月中旬に実施できるよう準備を進めており、三井物産の経営幹部が順に出席し、年六回程度の開催（春・秋に三回ずつ）を目標としています。

総会終了後は、本店二十四階グールデンルームで懇親昼食会を開催。三井物産側からは大橋会長・榎田社長ほか幹部三十名が出席し、三栄会会員会社幹部との情報交換が行われ、親睦を深めました。

（経営企画部連結経営推進室・東京三栄会事務局／柴田記）



報告に聴き入る会員各社の皆さん